

荒川を“首都圏の里川”に 荒川クリーンエイド

特定非営利活動法人

荒川クリーンエイド・フォーラム
関東地方整備局 荒川下流河川事務所
埼玉県戸田市他、東京都板橋区他



1 社会資本の概要

荒川は甲武信ヶ岳を源流とし、秩父山地を経て関東平野、埼玉県と東京都を流れ東京湾に注ぐ全長173km、流域面積2,940km²の一級河川です。中流域の和田吉野川と合流する埼玉県鴻巣市付近から下流では勾配が緩やかになり川幅約2.5kmと最も広がり、日本最大の川幅を誇ります。昔から広く農業用水や水道用水等として利用され、地域の人々に多くの恩恵を与える一方、「荒ぶる川」と称され、

しばしば洪水をもたらしていたため、江戸時代初期の付替工事、明治から昭和初期にかけて荒川放水路を建設することにより、荒川の洪水対策能力が向上しました。現在の荒川は首都圏における貴重な社会資本であるとともに、河川敷はゴルフ場や運動場・公園などに利用され、市民の憩いの場や様々な野生生物が共生する水辺環境となっています。



荒川のワンドでの生き物観察会



荒川河川敷利用の様子

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「クリーン(きれいにする)」と「エイド(助ける)」を組み合わせた造語である荒川クリーンエイドは1994年、高度経済成長期に悪化した荒川の水環境再生を目的として始まり、現在では市民団体、行政／自治体、企業、学校など多様な団体が協働する形で30年にわたり活動が継続されています。「調べごみ拾い」を軸とした活動は、ごみの種類と数を

記録することで環境問題への気づきを促し、データを活用して発生源の特定や啓発に取り組むとともに、ごみ拾いを通じて市民や団体が河川敷に継続して関わる機会を創出しています。また、生物多様性の保全、環境教育、情報発信などを通じて、環境意識の醸成と流域の自然再生に貢献し、自然と人々の暮らしを未来へつなぐ活動を続けています。



荒川河口に漂着した河川ごみ (2016年撮影)



荒川クリーンエイド説明会



大学の授業としての活動

3 活動の成果や波及効果等

活動開始から30年以上、流域の広範囲にわたり年齢・属性・地域を超え、多様な人々が関わる活動を継続したことにより、地域内外にわたる強固なネットワークが形成されました。

参加者が主体となって自然環境に関心を持ち、行動につなげる場を提供することにより、地域愛や環境意識の醸成に寄与し、環境教育や企業の社会貢献活動、学校の体験学習としても幅広く活用されています。また、海洋ごみ対策や国際的なプラスチックごみ問題への関心喚起など、地球規模の課題への貢献にもなっており、「地域の枠を超えた効果」を生んでいます。



若い世代と荒川清掃



国際海洋ごみ問題実践・啓発組織との協働



関東圏の企業への講演活動



海洋プラスチックで製作したアクセサリ

喜びの声



受賞者

荒川クリーンエイド・フォーラム
理事/オフィスマネージャー
今村 和志

コメント

支えていただいている皆様のおかげさまで荒川クリーンエイドの活動が「手づくり郷土賞」を受賞でき、とてもワクワクしています。皆さんと力を合わせて荒川を“首都圏の里川”に育ててきた歩みが形になったことが嬉しいです。これからも楽しみながら荒川を元気にしていきたいです。これからも皆さんとともににより郷土をつくれますと幸いです。

活動の内容

- 荒川の自然環境保全・再生活動
- 河川ごみの回収、集計、記録、分析調査
- ごみ問題についてSNSを使用した発信
- 海洋プラスチックを使用したアクセサリ製作

活動の経歴

- 平成 6 年 活動開始
- 平成 9 年 任意団体荒川クリーンエイド・フォーラム発足
- 平成 11 年 NPO法人化
- 平成 23 年 日本水大賞国土交通大臣賞
- 令和 8 年 インフラメンテナンス大賞優秀賞

所在地

埼玉県戸田市他、東京都板橋区他

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人
荒川クリーンエイド・フォーラム
TEL:03-3654-7240 E-MAIL:renraku@cleanaid.jp

対象となる社会資本

一級河川 荒川
※管理者:関東地方整備局 荒川下流河川事務所

